

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーゴ ガイド



2025.7.28-8.3

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

8:1 第六年の第六の月の五日、私が自分の家に座っていて、ユダの長老たちも私の前に座っていたとき、【神】である主の御手がそこで私の上に下った。

8:2 私が見ると、火のように見える姿があった。その腰と見えるところから下の方が火であり、腰から上の方が琥珀のきらめきのように輝いて見えた。

8:3 すると、その方は手の形をしたものを伸ばし、私の髪の毛をつかまれた。すると、霊が私を地と天の間に持ち上げ、神々しい幻のうちに私をエルサレムへと携え行き、ねたみを引き起こす「ねたみ」という像がある、北に面した内門の入り口に連れて行った。

8:4 なんと、そこには、私がかつて平地で見た幻と同じような、イスラエルの神の栄光があった。

8:5 その方は私に言われた。「人の子よ。さあ、目を上げて北の方を見よ。」私が目を上げて北の方を見ると、なんと、北の方の祭壇の門の入り口に「ねたみ」という像があった。

8:6 この方は私に言われた。「人の子よ。あなたには彼らのしていることが見えるか。イスラエルの家は、わたしの聖所から遠く離れようとして、ここで大きな忌み嫌うべきことをしているのではないか。あなたはなおまた、大きな忌み嫌うべきことを見る。」

8:7 それから、この方は私を庭の入り口に連れて行かれた。見ると、壁に一つの穴があった。

8:8 この方は私に言われた。「人の子よ。さあ、壁に穴を開けて通り抜けよ。」私が壁に穴を開けて通り抜けると、一つの入り口が

あった。

8:9 この方は私に言われた。「入って行き、彼らがここですしている悪い忌み嫌うべきことを見よ。」

8:10 私が入って行って見ると、なんと、這うものや動物のあらゆる形、すなわち忌むべきものや、イスラエルの家のすべての偶像が、周りの壁一面に彫られていた。

8:11 また、イスラエルの家の七十人の長老が、その前に立っていて、その中にはシャファンの子アザンヤも立っていた。彼らはみなその手に香炉を持ち、香の濃い雲が立ち上っていた。

8:12 この方は私に言われた。「人の子よ。あなたは、イスラエルの家の長老たちが、暗闇の中、それぞれ自分自身の偶像の部屋で行っていることを見たか。彼らは、『【主】は私たちを見ておられない。【主】はこの地を見捨てられた』と言っているのだ。」

8:13 また私に言われた。「あなたはなおもまた、彼らがやっている大きな忌み嫌うべきことを見る。」

8:14 それから、この方は私を【主】の宮の北の門の入り口へ連れて行かれた。するとそこには、女たちがタンムズのために泣きながら座っていた。

8:15 この方は私に言われた。「見たか、人の子よ。あなたはなおもまた、これよりも大きな忌み嫌うべきことを見る。」

8:16 それから、この方は私を【主】の宮の内庭に連れて行かれた。すると、なんと、

【主】の神殿の入り口、すなわち、玄関広間と祭壇との間に二十五人ばかりの人がいた。彼らは【主】の神殿に背を向け、顔を

東の方に向けていた。東の方を向いて、太陽を拝んでいた。

8:17 この方は私に言われた。「見たか、人の子よ。ユダの家にとって、彼らがここですしているような忌み嫌うべきことをするのは、些細なことだろうか。彼らはこの地を暴虐で満たし、わたしの怒りをいっそう駆り立てている。見よ、彼らはぶどうのつるを自分たちの鼻にさしているではないか。

8:18 だから、わたしも激しい憤りをもって応じる。わたしはあわれみをかけない。わたしは彼らを惜しまない。彼らがわたしの耳に大声で叫んでも、わたしは彼らの言うことを聞かない。」

エゼキエルは神様からイスラエルの偶像礼拝の現実を見せられました。「ねたみ」を引き起こす偶像、動物の偶像、タンズムという美少年の偶像（婦人たちのアイドルのような存在であった）などなど、多くの偶像に心を奪われて、神様を見失っていました。

このように偶像は多岐に渡ります。自分自身も神様を見失うようなものがないか、吟味しましょう。

①神のみこころは？

②どんな思いになりましたか？

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

29日 火曜

エゼキエル



9:1 この方は私の耳に大声で叫ばれた。
「破壊する武器をそれぞれ手に持った、この都を罰する者たちを連れて来い。」

9:2 見ると、六人の男が、それぞれ打ち壊す武器を手に持って、北に面する上の門を通してやって来た。もう一人の人が、亜麻布の衣をまとい、腰には書記の筆入れを付けて、彼らの中にいた。彼らは入って来て、青銅の祭壇のそばに立った。

9:3 ケルビムの上にあったイスラエルの神の栄光が、ケルビムから立ち上り、神殿の敷居へ向かっていった。腰に書記の筆入れを付け、亜麻布の衣をまとっている者を呼び寄せて、
9:4 【主】は彼にこう言われた。「都の中、エルサレムの中を行き巡り、ここで行われているすべての忌み嫌うべきことを嘆き悲しんでいる人々の顔に、しるしをつけよ。」

9:5 また、私が聞いていると、ほかの者たちに主はこう言われた。「この者の後について都の中を行き巡って、打ち殺せ。あわれみをかけてはならない。惜しんではならない。」

9:6 年寄りも、若い男も、若い娘も、幼子も、女たちも殺して滅ぼせ。しかし、しるしが付けられた者には、だれにも近づいてはならない。まず、わたしの聖所から始めよ。」そこで、彼らは神殿の前にいた老人たちから始めた。

9:7 それから主は彼らに言われた。「神殿を汚し、庭を刺し殺された者で満たせ。さあ、行け。」彼らは出て行って、都の中で打ち殺した。

9:8 彼らが打ち殺しているとき、私だけが残された。私はひれ伏して叫んだ。「ああ、

【神】、主よ。あなたはエルサレムの上にあなたの憤りを注ぎ出し、イスラエルの残りの者たちを、ことごとく滅ぼされるのですか。」

9:9 主は私に言われた。「イスラエルとユダの家の咎は非常に大きく、地は流血で満ち、都も不正で満ちている。彼らは『【主】はこの地を見捨てられた。【主】は見えておられない』と言っているのだ。」

9:10 だから、わたしもあわれみをかけない。わたしは惜しまない。わたしは彼らの頭上に彼らの行いを返す。」

9:11 そのとき、腰に筆入れを付け、亜麻布の衣をまとった、あの人がこう報告した。
「私は、あなたが私に命じられたとおりに行いました。」

神様は幻の中でエゼキエルに、その裁きをお見せになりました。永遠のいのちが損なわれないために、神様は罪をそのままで放置なさることはないのです。

ここでは6人がさばきの使命を帯びているのに対して、7番目の者は「忌み嫌うべきことを嘆き悲しんでいる人々」の救いのために働きます。7は完全数であり、それはまさにイエス様の救いを暗示するものとなっています。

私たちはこのように、さばきの中から救われたということを思い起こしましょう。そして罪についてはいは真剣に「嘆き悲しむ」者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 水曜

エゼキエル



10:1 私が見ていると、ケルビムの頭上の大空に、サファイアのような、王座に似たものがあり、それがケルビムの上に現れた。

10:2 主は亜麻布の衣をまとった者に命じられた。「ケルビムの下にある車輪の間に入り、ケルビムの間の炭火をあなたの両手に満たし、それを都の上にまき散らせ。」この人は私の目の前でそこに入って行った。

10:3 その人が入って行ったとき、ケルビムは神殿の南側に立っていて、雲がその内庭を満たしていた。

10:4 【主】の栄光がケルビムの上から上り、神殿の敷居に向かった。神殿は雲で満たされ、また、庭は【主】の栄光の輝きで満たされた。

10:5 そのとき、ケルビムの翼の音が外庭にまで聞こえた。それは、全能の神が語られるときの声のようであった。

10:6 主が亜麻布の衣をまとった者に「車輪の間、ケルビムの間から火を取れ」と命じられると、この人は入って行き、輪のそばに立った。

10:7 すると、ケルビムのひとりがケルビムの間から、ケルビムの間にある火の方に手を伸ばして、その火を取り、亜麻布の衣をまとった者の両手にそれを盛った。この人はそれを受け取ると、出て行った。

10:8 ケルビムの翼の下には人間の手の形があった。

救いのために働いた7番目の者が、今度は炭火をまき散らすさばきのために使命が与えられます。救い主イエス様は、またさばき主でもあられることを暗示しています。愛は義によつて的確なものとなるのです。義なる者はイエス様のさばきがあるからこ

そ、安心して信仰を守り通すことができます。
イエス様の十字架によって義と認められた私たちは、イエス様のさばきがあることを意識しましょう。それは恐怖ではなく、救いが完成するための勝利です。
地上に生きることにしても、主に従って義に歩む者は、主のさばきを希望としましょう。そのような行動でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 木曜

エゼキエル



10:9 私が見ると、ケルビムのそばに四つの輪があり、一つの輪は一方のケルビムのそばに、もう一つの輪はもう一方のケルビムのそばに、それぞれあった。その輪は緑柱石の輝きのように見えた。

10:10 それらの形は四つとも同じで、一つの輪がもう一つの輪の中にあるようであった。

10:11 それらが進むとき、それらは四方のどの方向にも進み、進むときには向きを変えなかった。なぜなら、頭が向かうところにほかの輪も従い、それらが進むときには向きを変えなかったからである。

10:12 それらのからだ全体と、その背、その手、その翼、さらに輪、すなわちその四つの輪には、周りに目がたくさん付いていた。

10:13 私はそれらの輪が「車輪」と呼ばれるのを聞いた。

10:14 それぞれに四つの顔があり、第一の顔はケルビムの顔、第二の顔は人間の顔、第三の顔は獅子の顔、第四の顔は鷲の顔であった。

10:15 そのとき、ケルビムは飛び立った。それは、私がかつてケバル川のほとりで見た生きものであった。

10:16 ケルビムが行くと輪もそのそばを進み、ケルビムが翼を広げて地上から上るとき輪もそのそばを離れず、向きを変えなかった。

10:17 ケルビムが止まると輪も立ち止まり、ケルビムが上ると輪も一緒に上った。生きものの霊が輪の中にあったからである。

10:18 【主】の栄光が神殿の敷居から出て行って、ケルビムの上にとどまった。

10:19 すると、ケルビムは翼を広げて、私の目の前で地上から上って行った。出て行くと

き、輪もそのそばについて行き、【主】の宮の東の門の入り口で止まった。イスラエルの神の栄光が彼らの上にあった。

10:20 彼らは、かつて私がケバル川のほとりで、イスラエルの神の下に見た生きものであった。私は彼らがケルビムであることを知った。

10:21 彼らはそれぞれ四つの顔と、それぞれ四つの翼を持っていた。その翼の下には人間の手のようなものがあった。

10:22 彼らの顔かたち、それは、私がかつてケバル川のほとりでその容貌と姿を見たとおりの顔であった。彼らはみな、前の方へまっすぐに進んで行った。

1章に記されていたあの幻がまた出てきます。「ケバル川のほとりでその容貌を姿を見たとおりの顔」です。ケバル川においては従順な民のために表された神の「栄光」でしたが、ここではさばきのために表された神の權威です。

私たちの自己中心的な見方からすると、神様は何か一貫していないように思えるかもしれませんが、神様は一貫した同じお方です。人間が不安定であり、一貫していない不誠実な者なので、主が違って見えるのです。

主の前に誠実でありましょう。信仰の歩を一貫したものをしましょう。常に主は不変であることを覚えて、自分自身に非がないか吟味しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 金曜

エゼキエル



11:1 霊は私を引き上げて、【主】の宮の東に面した東の門に連れて行った。見よ、その門の入り口には二十五人の者がいた。そしてその中に、民の長であるアズルの子ヤアザンヤと、ベナヤの子ペラテヤがいるのを私は見た。

11:2 主は私に言われた。「人の子よ。この者たちは、この都でよこしまなことを謀り、悪いばかりごとをめぐらし、

11:3 『当分、家を建てなくともよい。この都は鍋であり、われわれはその肉だ』と言っている。

11:4 だから、彼らに向かって預言せよ。人の子よ、預言せよ。」

11:5 【主】の霊が私に下り、私に言われた。「あなたは言え。『【主】はこう言われる。イスラエルの家よ。あなたがたはあのように言ったが、わたしは、あなたがたの霊の思いをよく知っている。

11:6 あなたがたはこの都で、刺し殺された者を増し加え、都の通りを刺し殺された者で満たした。

11:7 それゆえ、【神】である主はこう言われる。あなたがたが町の中に横たえた、刺し殺された者こそが肉であり、この町は鍋である。しかしわたしは、あなたがたをその中から連れ出す。

11:8 あなたがたは剣を恐れているが、わたしはあなたがたの上に剣をもたらし——【神】である主のことば——。

11:9 わたしはあなたがたを町から連れ出して、他国人の手に渡し、あなたがたにさばきを下す。

11:10 あなたがたが剣に倒れ、わたしがイスラエルの国境であなたがたをさばくとき、あなたがたは、わたしが【主】であることを知る。

11:11 この都はあなたがたにとって鍋とはならず、あなたがたはその中の肉とはならない。わたしは、イスラエルの国境であなたがたをさばく。

11:12 あなたがたは、わたしが【主】であることを知る。あなたがたが、わたしの掟に従って歩まず、わたしの定めを守らず、あなたがたの周りの国々の慣わしに従ったからである。』」

かつてエレミヤは、エルサレムがカルデヤ人の来襲のために鍋の中の肉のように悲惨なことになるかと預言しましたが、この25人の者はエレミヤを嘲笑し投獄しました。主はエゼキエルに対して彼らの変わりない不信仰とさばきを伝えています。彼らは「この都は鍋であり、われわれはその肉だ。」ということ、鍋に守られているというように、逆手の意味にとって揶揄しているのです。その結果「あなたがたはこの都で、刺し殺された者を増し加え、都の通りを刺し殺された者で満たした。」ということが起きてしまいました。

そして「あなたがたはこの都で、刺し殺された者を増し加え、都の通りを刺し殺された者で満たした。」ということが預言され、そして成就したのです。(13節)

主の救いはイエス様の命をかけた出来事です。またその預言も預言者たちが命をかけて伝えたものです。私たちも伝えられた神様のことばに命をかける価値があるものとして、受け止めて従って生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 土曜

エゼキエル



11:13 私が預言していたとき、ベナヤの子ペラテヤが死んだ。それで、私はひれ伏して大声で叫んだ。「ああ、【神】、主よ。あなたはイスラエルの残りの者たちを滅ぼし尽くされるのでしょうか。」

11:14 そのとき、次のような【主】のことばが私にあった。

11:15 「人の子よ。エルサレムの住民は、あなたの兄弟、同胞、あなたに買い戻しの権利がある親類の者たち、またイスラエルの全家のすべての者に対して、こう言った。

『【主】から遠く離れよ。この地はほかでもないわれわれの所有地として与えられているのだ。』

11:16 それゆえ言え。『【神】である主はこう言われる。わたしは彼らを遠く異邦の民の中へ移し、国々の中に散らした。しかし、わたしは彼らが行ったその国々で、しばらくの間、彼らの聖所となっていた。』

11:17 それゆえ言え。『【神】である主はこう言われる。わたしはあなたがたを諸国の民の中から集め、あなたがたが散らされていた国々からあなたがたを呼び寄せ、あなたがたにイスラエルの地を与える。』

11:18 彼らがそこに来るとき、すべての忌まわしいもの、すべての忌み嫌うべきものをそこから取り除く。

11:19 わたしは彼らに一つの心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしは彼らのからだから石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える。

11:20 こうして、彼らはわたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行う。彼らはわた

しの民となり、わたしは彼らの神となる。
11:21 しかし、忌むべきもの、忌み嫌うべきものの心を、自分の心として歩む者には、その行いを頭上に返す——【神】である主のことば。」

11:22 するとケルビムは翼を広げ、輪もその横についた。イスラエルの神の栄光がその上の方にあった。

11:23 【主】の栄光はその都の中心から上って、都の東にある山の上にとどまった。

11:24 霊は私を引き上げて、幻のうちに、私をカルデアにいる捕囚の民のところへ、神の霊によって連れて行った。そして、私が見たその幻は、私から去って上って行った。

11:25 私は、【主】が私に示されたことをことごとく捕囚の民に告げた。

補習として他国に行った者たちに対して、エルサレムに残った人々には「【主】から遠く離れよ。この地はほかでもないわれわれの所有地として与えられているのだ。」と言って誇りました。

それゆえ主はエルサレムに残った人々に希望を見出すのではなく、他国においてご自身が聖所となり、さらには「散らされていた国々からあなたがたを呼び寄せ、あなたがたにイスラエルの地を与える。」という希望を宣言されたのです。

私たちの希望は、エルサレムという住む場所ではなく、立場ではなく、神殿があるという見える状況でもありません。私たちの希望は、何よりも主に従う信仰にあるのだということを、常に忘れないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12:1 次のような【主】のことが私にあった。

12:2 「人の子よ。あなたは反逆の家の中に住んでいる。彼らは見る目があるのに見ず、聞く耳があるのに聞こうとしない。彼らが反逆の家だからである。」

12:3 人の子よ。あなたは捕囚のための荷物を整え、彼らが見ている前で、昼のうちに移れ。彼らの見ている前で、今いる場所からほかの場所へ移れ。もしかしたら、彼らに自分たちが反逆の家であることが分かるかもしれない。

12:4 あなたは、昼のうちに彼らが見ている前で、自分の荷物を捕囚のときの荷物のようにして持ち出せ。そして、捕囚に行く人々のように、彼らの見ている前で夕方出て行け。

12:5 彼らの見ている前で壁に穴を開け、そこから荷物を運び出せ。

12:6 彼らの見ている前で、あなたは荷物を肩に担ぎ、暗いうちに出て行き、顔をおおって地を見るな。わたしがあなたをイスラエルの家のためにしるしとするからだ。」

12:7 そこで、私は命じられたとおりにした。自分の荷物を捕囚のときの荷物のようにして昼のうちに持ち出し、夕方、自分の手で壁に穴を開け、彼らの見ている前で、暗いうちに荷物を背負って出て行った。

12:8 翌朝、私に次のような【主】のことがあった。

12:9 「人の子よ。反逆の家、イスラエルの家は、あなたに『何をしているのか』と尋ねなかったか。

12:10 彼らに言え。『【神】である主はこう言われる。この宣告は、エルサレムの君主、

およびそこにいるイスラエルの全家に関わるものである。』

12:11 また言え。『私は、あなたがたへのしるしである。私がしたようなことが彼らにもなされる。彼らは捕囚となって引いて行かれる。』

12:12 彼らのうちにいる君主は、暗いうちに荷物を背負って出て行く。出て行けるように壁に穴が開けられる。彼は顔をおおう。自分の目でその地を見ることはもうないからである。』

12:13 わたしはまた、彼の上にわたしの網をかけ、彼はわたしの罠にかかる。わたしは彼をカルデア人の地、バビロンへ連れて行く。しかし、彼はその地を見ずに、そこで死ぬ。

12:14 わたしはまた、周囲にいて彼を助ける者たちや、彼の軍隊をみな四方に追い散らし、剣を抜いて彼らの後を追う。

12:15 わたしが彼らを諸国の間に散らし、国々に追い散らすとき、彼らは、わたしが【主】であることを知る。

12:16 わたしは彼らの中のわずかな者を、剣や飢饉や疫病から免れさせる。こうして彼らは、行く先の国々の中で、自分たちのした忌み嫌うべきわざをことごとく語り告げようになる。そのとき彼らは、わたしが【主】であることを知る。」

神様は預言者エゼキエルに、住居を移すことによって捕囚のことをリアルに預言しなさいと命じました。彼はそれに従ったのです。その内容は、捕らえられて移住させられるだけでなく、敵から逃れて城壁の破れ口から逃れることや、王の目がえぐられて見えないままに移されることなどがあ

りました。

主は「わたしが主であることを知る」と言っておられますが、それはさばきによる場合もあれば「剣や飢饉や疫病から逃れさせる」ことによる場合もあります。私たちは後者でありましょう。主の恵をうけて主を知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

